

# 清風翁と清風松 (8)



## 清風松 その五

翁は嘉永五年壬子正月七日寿齡古稀を迎え、氏神三隅八幡宮に参拝、記念の松を奉獻した。その歌に

子の歳の子の日に松を捧げ来て  
君萬代を誇る幣とも

しかしその松の所在が明かならず現地に就て探索するに本殿向って左側社務所手前にある直幹の男松ならむかと古屋宮司の調査を乞うたが別に清風松なる申伝えや記録も無く、ただ明治八年の神社内に依れば当時境内に四本の松あり、目通り寸法等記しあるも、現存の松の何れかは不詳であった、探索するも筆者の指摘する松以外に求め難く、一方古老の言によると栽植の年月と比べて樹令に適合せず云々で確実を期し難く、なお慎重に調査を重ねて決すべきものと思う。

敬神の念厚き翁は福井文忠と相はかり予て八幡宮に奉納されていた大般若波羅密多經の写本がいたく蠹魚の被害を蒙ったことを慨しこれが写本の新規奉納を福井文忠

に囑し爾来文忠は医業の傍ら、日夜宮々と写経を続けたが全巻の完成をみず五十七歳で病歿した。

## 清風松 その六

多くの郷土人が迎ぎ親んだんつかしの清風松は翁が五十八歳のころ平安古邸の稚松を山莊に植えたもので百三十数年の風雪に耐えられたもので樹姿極めて雄麗龍幹高く、松籟颯々と仰がれたものであった。回顧すれば昭和十六年史蹟下調べのため初めて出張した文部省上田囑託もまず第一松に目を注ぎ、清秀な松だと仰ぐので筆者がこれが清風松だと告げるとさすがにより松だと感嘆久しくそれは願意成るかの瑞兆さえ感じたのであった。

樹齡の無窮を祈った記念すべき二世清風松も、無惨松喰い虫の侵害で手当の甲斐なく昭和四十九年二月十四日樹齡百三十三年で雄姿を歿したことはまことに痛惜に堪えない。

### 白 藤 董

## 油断大敵

### 子供のむし歯ノ

最近では子供にむし歯があるのは当たり前で、そのたいへんさには不感症になっているくらいがあります。それでいて、聞いてみると、むし歯にならないことを願いとされているお母さんは大勢いらっしゃいます。願いはあっても行動に移さなければむし歯になってしまいます。



児用粉乳を赤ちゃんに飲ませるための道具です。ところがその中にミルク以外のものを入れて、「のませる道具」に使用しているお母さんがいるのです。こぼさないで

のんでくれるものですから、便利な道具にしているわけです。すでにコップで飲んだ方がよい時期であるにもかかわらず使用している場合があります。これは栄養の面

## 文 芸

### 清風句会

天

面会に外の冷気をまとい来し  
元

地

雑巾のしぼりしまゝに凍てゝあり  
千代

人

野地蔵や半身に雪吹く袈紗をかけ  
梅雪

五 客

千大根ねじれねじれて乾きけり  
信子  
叱られて泣き泣き眠ることたつかな

十 哲

氣休めに炬燵に入る娘のすぐ眠り  
梨花  
苑生の白足袋いつも汚れなし  
元

初雪や犬足跡を先につけ  
さつき  
血族に皆んな別れて炬燵守る  
西日さす枯野にまぶし海を見る  
ゆか

庭先に咲きほころびし寒椿  
みどり  
家の建つ杭の打たれて犬ふぐり  
千代

外来はこたつに待たせ山の医者  
掘りこたつおのづと決る家長の座  
梅雪  
氣持よく眠ることたつの受験の子  
ひで

## 行 事 予 定

- 九日 〃 定例議会
- 上旬 〃 衛生自治会長集会
- 十四日 〃 乳児検診
- 十六日 〃 一歳六ヶ月検診
- 下旬 〃 民生委員会
- 〃 〃 健康づくり推進協 議会
- 〃 〃 食品衛生ママさん 協力員集会
- 〃 〃 町医集会